

やってみよう

画工作

家庭学習

なるほど！
それいいね！
…に出あえる時間

はじめに、イメージしてみてください。

食器を洗っていたら、手がすべってしまい
お気に入りの茶碗がわれてしまいました…。
お店に行ったら、どんな茶碗を買いますか。

お店についたら茶碗を手にとって、ちょうどいい大きさはどれかな、気持ちのよい手ざわりはどれかな、ご飯をおいしそうに盛ることができる形や色はどれかな…と自分の生活にピッタリなデザイン探しが始まると思います。

この時、体全体を使って働かせているのが「**造形的な見方・考え方**」というものです。それこそ図工や美術の時間に学んだ力であり日々の生活の中で私たちが身に付けた力です。

図画工作科の時間は、ただ絵を描く時間、工作をする時間というわけではなく、様々な表現や鑑賞の活動を通して、**つくりだす喜び**を味わう時間です。ホンモノそっくりな絵や立体作品をつくりだすことが目的ではありません。作品や活動をつくりだすということは**かけがえない自分**を見いだしたり、つくりだしたりすることなのです。

生活の中や自然の中にある形や色などの美しさやよさ、面白さに気付き、そこで感じたことや、好きな形や色などを自らの表現に取り入れてみる…図工の楽しさはそこにあります。

でも、図工の時間には、画用紙やいろいろな材料が必要で、家庭学習でやるには準備が難しいのでは…そんな思いもあるでしょう。

そこで今回は、横須賀市造形教育研究会で教科書と同じねらいで開発されている題材を中心に、できるだけ家庭学習で取り組みやすい題材を紹介いたします。そこで見られるお子さんの豊かな発想に対して「**なるほど！**」「**それいいね！**」と共感してみてください。

どこまでも広がる世界

～おくゆきのある表現にちょうせんしよう～

5・6年上の図工の家庭学習は『どこまでも広がる世界』という題材です。その中で、「おくゆき」のある表現をテーマに取り組んでみましょう。わたしたちの身の回りには、絵や写真、もようなどがたくさんあります。「おくゆき」という視点でその一つ一つを見てみると、どうでしょう。「おくゆき」を感じるものと、感じないものがあると思います。そもそも紙の上には、「おくゆき」はありません。それなのに、なぜ「おくゆき」を感じることができる絵や写真、もようなどがあるのでしょうか。そんなことを考えながら取り組んでみましょう。

高学年の図工の中での新たな視点、そして身近な「作品」を見る新たな視点にもなれば...と思います。

用意するもの (用意できたら、□に✓を書こう)

- えん筆・消しゴム
- 色えん筆 など
- 練習用の紙 (昨年度のノートのみでよい)
- ワークシート

【注意】練習用の紙は、昨年度のノートで余っているページがあれば、それでもかまいませんし、自由帳でもよいです。紙(ノート)の向きは、たてでも横でもどちらでもよいです。

1. 「おくゆき」の表現を練習しよう。

- (1) まず、練習用の紙を使います。
- (2) その紙の上に1つ○をかきます。場所はどこでもよいです。○の大きさは、こぶしの大きさくらいです。
- (3) 空いている所にもう1つ○をかきます。
(2)の○よりも小さくかきます。

【質問①】 (2)と(3)の○は、どちらが前にあるように見えますか。

- (4) 空いている所にもう1つ○をかきます。
(3)よりもさらに小さくかきます。

【質問②】 3つの○の中で一番おくに見えるのはどれですか。

※紙には「おくゆき」はありませんが(2)から(4)のように○の大きさを変えてかくことで「おくゆき」を表現することができます。「おくゆき」を表現するためには、○と○を重ねるという方法や、色のこさを変えるという方法などもあります。

- (5) ○の大きさを変えたり、○を重ねたりしながら、たくさん○をかいて「おくゆき」のある空間を表現してみましょう。

2. どこまでも広がる世界を表現しよう。

ワークシートを見てください。まずは、自分のオリジナルキャラクターを考えます。そのキャラクターの大きさを変えたり、色を変えたりしながら、自分だけの「どこまでも広がる世界」を想像し、ワークシートのわく(青)の中にえがいてみましょう。

3. 作品の説明をしましょう。

ワークシートの下にある作品の紹介文には「がんばったこと」や「工夫したこと」ではなく、**どんな世界を表現したのか**を文章にしてください。スペースが足りない時は、はみ出してください。

どこまでも広がる世界

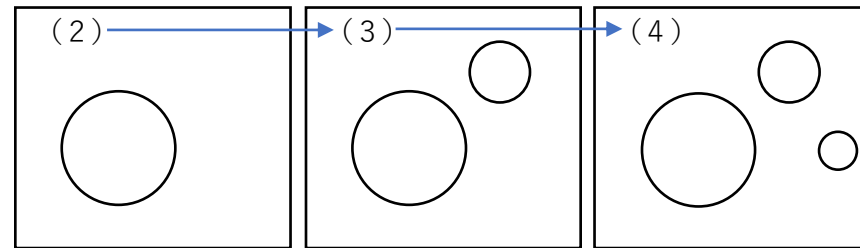
保護者用

～おくゆきのある表現にちょうせんしよう～

高学年の図画工作では、表現活動や鑑賞活動を通して、動きや奥行き、バランス、色の鮮やかさなど理解することも目指しています。今回は「奥行き」にスポットを当てています。ただし、奥行きの表現＝遠近法を教えるということではありません（遠近法は中学校の指導事項です）。今回は紙面上での指導になるため、少し無理があるかもしれませんが、学校では黒板や画像、友だちの作品を見ながら、または造形遊びなどを通して児童ができるだけ主体的に様々な造形的な特徴を理解できるように指導しています。この家庭学習でもお子さんの試行錯誤を見守ってください。そして自分なりの発想や構想を練りながら表現しようとしている姿を励ましていただければと思います。

1. 「おくゆき」の表現を練習しよう。

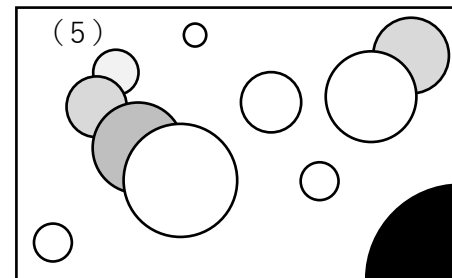
子どもたちは、説明文を読みながら取り組みますが、指導側のイメージは以下の通りです。



【質問①】 → 大きい○が前にあるように見えます。

【質問②】 → 一番小さいの○が一番奥にあるように見えます。

(5) で○を増やしていきます。その時、ただ○を増やすだけでなく右図のように重なりや、濃淡をつければ主体的な学びがあったと評価できます。



2. どこまでも広がる世界を表現しよう。

ワークシートにうつります。オリジナルキャラクターをつくらしたらアイデアスケッチの枠にかきます。練習では、○で奥行きの表現に挑戦しましたが、この○がオリジナルキャラクターにかわるというイメージです。最後の作品は、青い枠の中にえがきます。児童からよく「オリジナルキャラクター以外をかいてもいいですか」と質問されますが、もちろんOKです。どんどん自分のイメージに近づけてほしいと思います。お子さんが少しでも楽しみながら自分だけの世界を表現できるように、温かく見守ってください。

3. 作品の紹介をしましょう。

大切なことは絵の上手い下手ではなく、お子さんがこの活動で何を考え、どう取り組んだか...です。そのことについて「なるほど!」「それいいね!」などと共感していただければと思います。

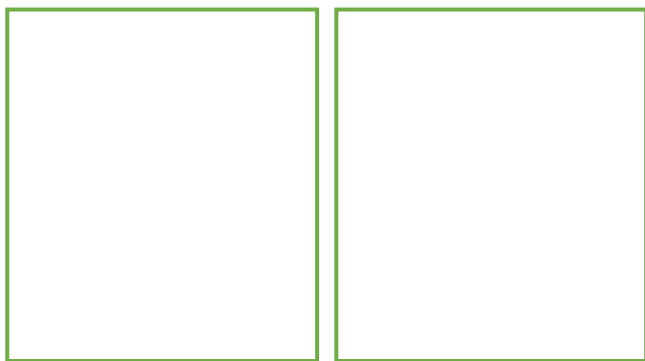
用意するもの (お子さんが用意できたかご確認をお願いします)

- 鉛筆・消しゴム
- 色鉛筆 など
- 練習用の紙 (昨年度のノートのみでもよい)
- ワークシート

【注意】 練習用の紙は、昨年度のノートで余っているページがあれば、それでもかまいませんし、自由帳でもよいです。紙(ノート)の向きは、たてでも横でもどちらでもよいです。

1. 家庭学習の説明シート（児童用）を読んで、「おくゆき」の表現を練習しよう。
2. オリジナルキャラクターを考えよう。下の□にオリジナルキャラクターをかこう。

オリジナルキャラクターのアイデアスケッチ。

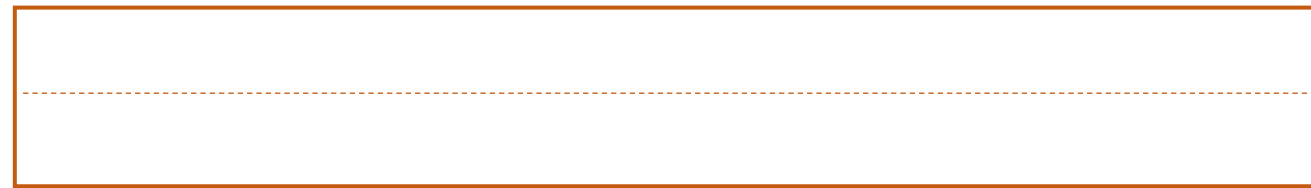


オリジナルキャラクターは1つだけでもよいです。

3. オリジナルキャラクターの大きさを変えたり、重ねたり、色を変えたりして、あなただけの「どこまでも広がる世界」を右の□にえがこう。
4. あなたが考えた「どこまでも広がる世界」についての題名を作品の下に書きましょう。
5. あなたが考えたの「どこまでも広がる世界」はどんな世界ですか。その紹介文を右の□に書きましょう。



題名：	名前：
-----	-----



新しいことを思い付いたら、自由帳などにメモしたり、絵にしてみてくださいね。